

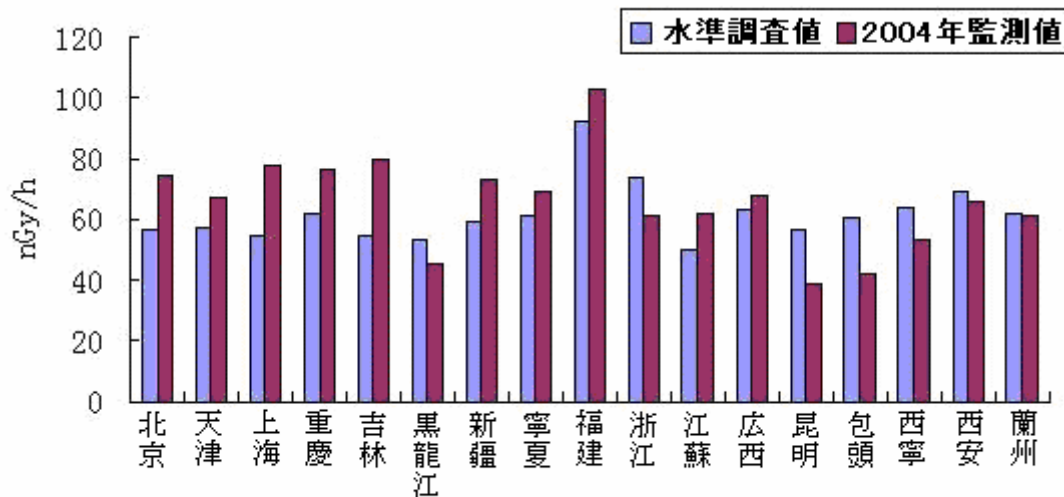
放射線環境

状況

全国の放射線環境の質

2004年の全国放射能環境観測網による放射線の空気吸収線量率モニタリング結果が示しているように、北京、天津、上海、重慶、吉林、黒龍江、新疆、寧夏、福建、浙江、江蘇、広西、昆明、包頭、西寧、西安などの省・市管轄区内の放射線の空気吸収線量率は38.5~102.6 nGy/hで、天然放射能水準調査時の基準値50.3~92.3 nGy/hの範囲内であった。

北京、包頭、石家庄、南京、福州、南寧、ハルビン、ウルムチなどの省・市における大気中のラドン濃度は2.58~61.72 Bq/m³で、例年の観測結果と基本的に一致した。このうち、室内のラドン濃度は国家が頒布している「住居内のラドン濃度抑制基準」より低かったが、上海、天津、石家庄、杭州、西安、ウルムチなどの市の環境エアロゾルの全、全比放射能は正常なレベルを保った。



2004年の一部の省・直轄市におけるγ放射線空気吸収線量率

汚染源周辺の放射線環境

2004年、浙江の秦山第1期、第2期、第3期原子力発電所と、広東の大亜湾/嶺澳原子力

発電所の周辺環境は運転前のバックグラウンド値水準を維持していた。

秦山原子力発電基地の各原子力発電所では、通年の放射性流出物の排出量が国家の規定した限界値よりも低く、周辺環境の放射線空気吸収線量率の平均は 102.3 nGy/h で、運転前のバックグラウンド値の上下範囲内だった。秦山原子力発電基地における大気媒介流出物が放出するトリチウム含有量は 16.3 ~ 1,034.5 mBq/m³ · air よりも小さく、平均値は 270.3 mBq/m³ · air、降水中のトリチウム含有量は 1.2 ~ 28.5 Bq/L 未満、平均値は 5.1 Bq/L で、総じて運転前水準を上回った。秦山原子力発電基地周辺の夏家湾、楊柳村のモニタリング結果から、2002 年以降大気中あるいは降水中のトリチウム含有量は年々増加の傾向にあるが、いずれも国家规定の範囲内であることがわかる。そのほかのさまざまな環境媒質のうち、原子力発電所が排出する放射性核種濃度はいずれも運転前のバックグラウンド値の上下範囲内だった。

2004 年、広東の大亜湾/嶺澳原子力発電所の周辺環境における放射線空気吸収線量率と大気中の放射性核種濃度の含有量は、依然として原子力発電所運転前の自然のバックグラウンドレベルを保っている。西大亜湾海域において、海水のトリチウム含有量が 1.3 ~ 11.0 Bq/L よりも小さかった以外、そのほかの人工放射性核種含有量はバックグラウンド値の上下範囲内にあった。海洋水生生物のカキをサンプルとしたとき、その中から原子力発電所が排出する重要核種 110mAg を観測した。その範囲は 0.30 ± 0.05 Bq/kg · 生であった。そのほかのさまざまな環境媒質のうち、原子力発電所が放出する放射性核種濃度はいずれも発電所運転前のバックグラウンド値の上下範囲内だった。

電磁波汚染源

モニタリング結果によると、個別の移動通信基地局の屋上プラットフォームでの電磁波水準が国家の関連基準をオーバーした以外、大部分の基地局周辺の建築物の室内および環境敏感ポイントの電磁波水準はすべて国家の「電磁波防護規定」(GB8702-88)の限界値に適合していた。一部の 500kV の高圧送電線の周辺環境では、電磁波レベルが国家の定める限界値を上回った。テレビ・ラジオ基地局については、アンテナに比較的近い一部の高層建築屋上と住民宅の窓付近など周辺の敏感ポイントで、電磁波水準が国家の電磁波防護規定の値を上回った。またアンテナから比較的遠く、建物の高さが比較的低いアンテナ塔に直接面していない敏感ポイントでは、電磁波レベルが国家基準に合致した。

措置と行動

放射源調査と管理

国務院の同意を経て、国家環境保護総局のリーダーシップの下、公安部、衛生部と合同で「放射源を調査し、民衆を安心させる」特別プロジェクトが全国規模で展開された。まず放射源管理状況を記録し、全国の放射源管理のデータ化を実現した。今回の特別プロジェクトを通じ、目下全国にある 14 万箇所以上の放射源を一通り査定した。放射源管理業務はまず衛生系統から順次、環境保護系統へ移管し、放射源安全管理体制を整備する。国家反響保護総局は、特に今回の特別プロジェクトの活動から明らかにされた問題に対し、系統立てた措置を施し、環境保護部門（核安全主管部門）の放射源の生産、輸出入、販売、使用、輸送、貯蔵及び廃棄の各処置に対する安全な統一的管理監督機能をさらに強化した。

核安全に関する法令

行政許可法の実施に伴い、国家核安全局は従来施行されてきた核安全に関する法規、条例と指導規則に対し、整備を行った。

核と放射能事故、テロ攻撃事件に対する緊急対応

浙江核応急委員会は 2004 年 12 月、秦山原子力発電基地内外で、核事故を想定した応急演習を行った。省の環境保護、公安、交通、衛生、民生の各局と省軍区、海塩県などの部門が今回の演習に参加、演習は成功を収めた。